

パワーアンプ XTi2 Series

XTi6002, XTi4002, XTi2002, XTi1002

取扱説明書

Version 1.0





©2019 Sound House Inc.

安全上の重要事項

- 1. 本マニュアルに記載されている全ての警告と指示に従ってください。
- 2. 本体を水の近くで使用しないでください。
- 3. 本体を水または液体の中にいれないでください。
- 本体に直接エアゾールスプレー、クリーナー、消毒剤や殺虫剤を使用しないでください。メンテナンスは 乾いた布で拭いてください。
- 5. 本体の通気口をふさがないよう、マニュアルの指示に従って設置してください。
- 6. 熱源(ラジエーター、ストーブ、アンプ)などの近くに設置しないでください。
- 7. 安全のため、必ず付属の電源コードをご使用ください。
- 8. 電源コードは踏まれたり、挟まれる事の無いようにしてください。
- 9. 電源コードを抜く際は、コードを引っ張らず、プラグ部分を持って引き抜くようにしてください。
- 10. 製品受領時に外部に損傷(電源コード等を含む)が無いか確認してください。もし製品にダメージが 有った場合、ただちに販売店へ連絡してください。修理を行わずに使用を続けると更なる深刻な ダメージを被る恐れが有ります。その状況で使用を続けた場合は、保証期間内でも保証外の対応となる 場合が有ります。
- 11. アクセサリーやパーツは、メーカーが定めた物をご使用ください。
- 12. 長期間使用しない場合や、雷が発生した時はプラグを抜いてください。
- 13. 電源周りのトラブルや液体をこぼしてしまった時、高い湿度にさらされた時は、販売店に相談して ください。そのまま使用を続けたり、無理に自分で修理を試みないでください。
- 14. 電源コードのプラグは抜き差し可能で、差し込むだけで使用できます。
- 15. 地域の法律に沿ってご使用ください。
- 16. 設置について疑問が生じた場合は、販売店に相談してください。

メンテナンスと修理

本製品は最新の電子技術と素材を使用しているため、それに応じたメンテナンスと修理を行う必要が あります。機材へのダメージ、使用者へのケガを防ぐためにメンテナンス/修理は CROWN の代理店にて 行ってください。

目次

安全上の重要事項	2
メンテナンスと修理	3
はじめに	5
仕様	5
各部の名称	6
セットアップ	9
フロントパネル操作	16
HiQnet Audio Architect ソフトウェア	20
プリセットの呼び出しと上書き保存	24
トラブルシューティングガイド	25

はじめに

この度は CROWN XTi2 シリーズ・パワーアンプをご購入いただき、誠にありがとうございます。XTi2 シリーズは高性能な DSP を搭載し、高い出力性能で大型スピーカーも余裕を持ってドライブできるパワー アンプです。液晶ディスプレイ上でクロスオーバー、イコライザー、ディレイ、リミッターなど様々な設定を することができます。専用ソフトウェア Band Manager 2 を使用すれば、PC 上でより高度な設定も可能です。 本製品の性能を最大限に発揮させ、末永くお使いいただくため、ご使用になる前に、この取扱説明書を 必ずお読みください。

亻	╋	様	
J.	┺	13	ς

モデル		XTi1002	XTi2002	XTi4002	XTi6002	
チャンネル数		2 2 2			2	
チャンネル出力	2Ω	-	- 1000W+1000W 1600W+1600W			
(1kHz,	4Ω	500W+500W	800W+800W	1200W+1200W	2100W+2100W	
THD0.5%)	8Ω	275W+275W	450W+450W	650W+650W	1200W+1200W	
ブリッジモノ出力	4Ω	-	2000W	3200W	6000W	
(1kHz,	8Ω	1000W	1600W	2400W	4200W	
THD0.5%)						
周波数特性(20H	Iz~20kHz、1W、4Ω)	+0/-1dB				
SN 比(8Ω、1kH	z、A ウェイト)	100dB 103dB			103dB	
ダンピングファクタ	¢−(10~400Hz、8Ω)	500以上				
アナログ入力	インピーダンス	$20k\Omega(バランス), 10k\Omega(アンバランス)$				
	感度	1.4V				
	最大レベル	+22dBu				
出カコネクター		4P スピコンx2、バインディングポスト				
ネットワークコネク	ネットワークコネクター		USB			
電源		AC100V、50 - 60Hz(電源コネクター付属))	
消費電力(1/8Po	wer、ピンクノイズ)	460W(4Ω)	460W(4Ω) 650W(2Ω) 1100W(2Ω)		1400W(2Ω)	
寸法	t(LxWxH)	483×89×359mm		483x89x359mm		
	質量	9kg		9kg		11kg

各部の名称

全面パネル

XTi6002, XTi4002, XTi2002, XTi1002 共通



A. 通気口

強制冷却用通気口です。

B. インジケーター

各チャンネル毎に搭載されています。

Ready (緑):	アンプが出力可能な状態にあるとき点灯します。
Signal (緑):	チャンネル入力が、ごく低いレベル(-40dB)でもあるとき点灯します。
-20 :	出力がクリップする手前-20dB を超えたとき点灯します。
-10 :	出力がクリップする手前-10dB を超えたとき点灯します。
Clip (赤):	信号がクリップしたとき点灯します。
Thermal (赤):	過熱温度センサーが働いたとき点灯します。

- C. ゲイン (レベル) コントロール
- D. Sel/Enter、Prev/Up、Next/Down ボタン
 LCD ディスプレイに表示されるメニューを操作するボタンです。
- E. LCD ディスプレイ

プリセットと DSP 機能の設定を行います。

F. 電源ボタン、インジケーター
 電源を ON にすると、青 LED が点灯します。

背面パネル

XTi6002



XTi4002, XTi2002, XTi1002



- A. 電源コネクター
- B. RESET (XTi6002のみ搭載)
 遮断したサーキットブレーカーをリセットします。
- C. バインディング・ポスト出力端子 スピーカーを接続します。バナナプラグや先バラのスピーカーケーブルが使用できます。



先バラの場合

ノブをゆるめ、絶縁部をはがした ケーブルを側面の穴に挿し込み、 ノブをしっかりと締めます。 D. スピコン出力端子

スピーカーを接続する端子です。ノイトリック製 NL4FX 端子のスピーカーケーブルが接続できます。 ※C (バインディングポスト出力端子) と D (スピコン出力端子) は並列接続されているため、 どちらか一方を使用してください。

※2 つのスピーカーに信号を送り出す際にスピコン出力端子を使用する場合、次の 2 通りの接続方法が あります。どちらかの方法を選択してください。

①CH1 と CH2 の両方のスピコン出力端子を使用する。
 チャンネル1
 チャンネル2

チャンネル1 (1+) (1+) (2+) (2+) (2+)

スピーカー

チャンネル	1	L
極性	+	-
スピコンの	1.	1
ビン番号	1+	1-

|--|--|

チャンネル2

スピーカー

チャンネル	2		
極性	+	-	
スピコンの	1.	1_	
ビン番号	1+	1-	

②CH1のスピコン出力端子のみを使用する。



チャンネル	1		1	2
極性	+	-	+	-
スピコンの	1.	1	0.1	0
ビン番号	1+	1-	2+	2-

E. 冷却ファン

冷却用のファンです。空気を前面パネルの通気口から吸い込み背面へ送り出します。ファンの回転速度は 3段階から選択できます。

F. リンク出力

3 ピン XLR スルー出力端子です。入力端子からの信号を他の音響機器へそのまま送り出します。 バランス XLR3 ピンケーブルが接続できます。

G. 入力端子

ミキサーなどを接続する端子です。バランス XLR3 ピンのケーブルが接続できます。各チャンネルに 1 系統搭載しています。

H. HiQnet USB 端子

PCと接続するための USB タイプ B 端子です。

Doc.#: SHD691-D

セットアップ

クイックスタート・プリセット

パワーアンプが使用される状況を想定し、その状況に最適な DSP による音声処理機能の組み合わせを 作り、その情報をあらかじめ本体に保存したものをクイックスタート・プリセットと呼びます。呼び出す だけで再現できるため、素早いセットアップが可能です。

クイックスタート・プリセットの呼び出し



- 1. 「Sel/Enter」ボタンを押して、ディスプレイに「PRESET」という文字を点滅させます。
- 2. もう一度「Sel/Enter」ボタンを押して、ディスプレイの左下の「PRESET」を点灯させます。
- 「Prev/Up」ボタンまたは「Next/Down」ボタンを操作して、ディスプレイに設定するプリセットを 表示させます。
 ※本製品の電源を初めて入れたときは「DSP OFF」が表示されています。「Next/Down」ボタンを一回 押すごとに「BRIDGE」「XOVER」「BRG SUBS」「SUBSYNTH」と表示が変わります。行き過ぎた 場合は、Prev/Up ボタンを押すと1つ前に戻ります。
- 4. 「Sel/Enter」ボタンを押して選択を確定します。ディスプレイに選択したプリセット名が表示され、 そのプリセットに使用されている DSP の信号処理機能に対応した DSP アイコンが表示されます。 ※ボタンを押してから 10 秒間何も操作を行わなかった場合は、現在のプリセットに戻ります。

クイックスタート・プリセット詳細

ステレオ DSP OFF



初期設定はこのモードになっています。アンプはステレオモードになり、全てのプロセッシング機能は 無効となります。

配線方法

- 1. ミキサーなどを CH1 と CH2 に接続します。
- 2. スピコン端子、またはバインディング・ポスト端子にスピーカーを接続します。

BRIDGE(ブリッジ)モード



BRIDGE モードは、アンプの両チャンネル出力を1つにして2倍の出力で1つのスピーカーをドライブ します。4Ω以上のインピーダンスを持ったスピーカーに接続してください。

配線方法

1. XLR ケーブルを使用してミキサーなどを CH1 と CH2 に接続します。

2. スピコン端子、またはバインディング・ポスト端子にスピーカーを接続します。



チャンネル	1		
極性	+	-	
スピコンの	1.	0.1	
ビン番号	1+	2+	

バインディングポスト出力端子の場合

CH1の(+) 端子にスピーカーの(+) 端子を接続し、CH2の(+) 端子にスピーカーの(-) 端子を接続 します。

スピコン出力端子を使用する場合

CH1 出力のみを使用します。1+端子にスピーカーの(+)端子を接続し、2+端子にスピーカーの(・)端子を 接続します。

Doc.#: SHD691-D

※このプリセットを選択すると、入力モードは「CH1+CH2」に設定され、CH1の入力信号とCH2の
 入力信号はミックスされます。
 ※このプリセットでドライブするときは「CH1」のレベルつまみのみを使用します。

BRIDGE モードに切り変える

- 1. 「Sel/Enter」ボタンを押すと Preset が点滅します。
- 2. もう一度「Sel/Enter」ボタンを押してディスプレイの左下の「PRESET」を点灯させます。
- 3. 画面に BRIDGE が表示されるまで「Next/Down」、または「Prev/Up」ボタンを押します。
- 4. 「Sel/Enter」ボタンを押して確定します。
- 5. YとBRG が選択されディスプレイに BRIDGE が表示されます。

XOVER (クロスオーバー) モード



XOVER モードは、クロスオーバー周波数 1.2kHz(24dB / oct)フィルターが ON になり、周波数 1.2kHz 以下の信号は CH1、1.2kHz 以上の信号は CH2 に送られます。

配線方法

- 1. ミキサーなどを CH1 に接続します。
- 2. CH1 および CH2 のバインディングポスト出力端子、またはスピコン出力端子にスピーカーを接続 します。CH1 の出力端子には中低域(1.2kHz 以下)用スピーカーを、CH2 には高域(1.2kHz 以上)用の スピーカーを接続してください。

※このプリセットを選択すると、入力モードは INPUTY に設定され、CH1の入力信号を CH1 出力 および CH2 出力に送ります。CH2の入力信号は無視されます。 ※スピコン出力端子を使用する場合、2 通りの接続方法があります。

XOVER モードに切り変える

- 1. 「Sel/Enter」ボタンを押すと Preset が点滅します。
- 2. もう一度「Sel/Enter」ボタンを押してディスプレイの左下の「PRESET」を点灯させます。
- 3. 画面に BIAMP が表示されるまで「Next/Down」、または「Prev/Up」ボタンを押します。
- 4. 「Sel/Enter」ボタンを押して確定します。
- 5. YとXOV が選択されディスプレイに BIAMP が表示されます。

BRG SUBS (ブリッジモノ出力) モード



BRG SUBS モードは、ステレオ・パワーアンプを 1CH のパワーアンプとして動作させ、2 倍の出力電圧で 1 台のサブウーファーをドライブするためのプリセットです。内蔵のクロスオーバー機能により、クロスオ ーバー周波数 90Hz (24dB/oct) フィルターが ON になります。4Ω以上のインピーダンスを持ったス ピーカーに接続してください。

プリセット設定は XOVER モードと同じになります。

配線方法

- 1. ミキサーなどを CH1、CH2 に接続します。
- 2. CH1 および CH2 のバインディングポスト出力端子、またはスピコン出力端子にサブウーファーを 接続します。



チャンネル	1		
極性	+	-	
スピコンの	1.1	9+	
ビン番号	1+	2+	

バインディング・ポスト出力端子の場合

CH1 の+端子にサブウーファーの (+) 端子を接続し、CH2 の (+) 端子にサブウーファーの (-) 端子を接続します。

スピコン出力端子の場合

CH1 出力のみを出力します。1+端子にサブウーファーの(+)端子を接続し、2+端子にサブウーファーの (-)端子を接続します。

※このプリセットを選択すると、入力モードは「CH1+CH2」に設定され、CH1の入力信号と CH2の入力信号はミックスされます。

※このプリセットでドライブするときは、CH1のレベルつまみのみを使用します。

SUBSYNTH



SUBSYNTH モードは、サブ・ハーモニック・シンセサイザー機能が ON になり、迫力ある低域が得られ ます。内蔵のクロスオーバー機能により、クロスオーバー周波数 90Hz(24dB/oct)フィルターが ON に なります。

配線方法

- 1. CH1 および CH2 の入力端子にミキサーなどを接続します。
- CH1 および CH2 のバインディング・ポスト出力端子、またはスピコン出力端子にサブウーファーを 接続します。

※このプリセットを選択すると、入力モードは「CH1+CH2」に設定され、CH1の入力信号と CH2の 入力信号はミックスされます。

スピコン出力端子を使用する場合、2通りの接続方法があります。

XOVER モードに切り変える

- 1. 「Sel/Enter」ボタンを押すと Preset が点滅します。
- 2. もう一度「Sel/Enter」ボタンを押してディスプレイの左下の「PRESET」を点灯させます。
- 3. 画面に SUBSYNTH が表示されるまで「Next/Down」、または「Prev/Up」ボタンを押します。
- 4. 「Sel/Enter」ボタンを押して確定します。
- 5. YとXOV が選択されディスプレイに SUBSYNTH が表示されます。

Doc.#: SHD691-D

15

© 2019 Sound House Inc.

フロントパネル操作

フロントパネルからアンプに搭載された様々な機能の設定をすることができます。

- Y (入力モード)
- XOV (クロスオーバー)
- EQ (イコライザー)
- DEL (ディレイ)
- LIMIT (リミッター)
- BRG (出力モード)

操作モードは工場出荷時には DSP OFF に設定されています。最初に電源を ON にしたとき画面には DSP OFF が表示されます。その後、電源を ON にしたときは、最後に電源を OFF したときに設定したモードが 表示されます。

下図に本製品のフロントパネルから設定できる機能を表します。

※本製品を USB 経由でコンピューターに接続し、HiQnet Audio Architect ソフトウェアを使用すること により、ここに示された機能に加えて、サポートされている全ての機能が使用できます。





- 1. 「Sel/Enter」ボタンを押して、ディスプレイに「PRESET」という文字を点滅させます。
- 2. もう一度「Sel/Enter」ボタンを押して、ディスプレイの左下の「PRESET」を点灯させます。
- 「Prev/Up」ボタンまたは「Next/Down」ボタンを操作して、ディスプレイに設定するプリセットを 表示させます。
 ※本製品の電源を初めて入れたときは「DSP OFF」が表示されています。「Next/Down」ボタンを一回 押すごとに「BRIDGE」「XOVER」「BRG SUBS」「SUBSYNTH」と表示が変わります。行き過ぎた 場合は、Prev/Up ボタンを押すと1つ前に戻ります。
- 「Sel/Enter」ボタンを押して選択を確定します。ディスプレイに選択したプリセット名が表示され、 そのプリセットに使用されている DSP の信号処理機能に対応した DSP アイコンが表示されます。
 ※DSP ボタンを押してから 10 秒間何も操作を行わなかった場合は、現在のプリセットに戻ります。

DSP 設定

- 1. 「Sel/Enter」ボタンを押して、ディスプレイに「PRESET」という文字を点滅させます。
- 2. 「Prev/Up」ボタンまたは「Next/Down」ボタンを押して、ディスプレイに「CONFIG」という文字を 点滅させます。
- 3. 「Sel/Enter」ボタンを押してY(入力モード)に入ります。この時、上部にはYのDSPアイコンが 点滅します。
- 4. 「Prev/Up」ボタンまたは「Next/Down」ボタンを押して設定を変更します。
- 5. 再び「Sel/Enter」ボタンを押して入力設定を確定し、XOVの設定に移ります。
- 6. 以上を繰り返して全ての DSP の設定を行います。

入力モード

- STEREO(初期設定)
 CH1 入力は CH1 出力へ、CH2 入力は CH2 出力に送ります。
- SUM (CH1+CH2)
 CH1 入力と CH2 入力はミックスされ CH1 と CH2 の両出力に送ります。この場合、信号は 6dB
 ブーストされます。
- INPUT Y CH1 入力は CH1 と CH2 出力に送ります。CH2 入力は無視されます。

出力モード

- STEREO (ステレオ)
 CH1 入力を CH1 出力へ、CH2 入力を CH2 出力へ送ります。
- BRIDGE-MONO(ブリッジモノ)
 両チャンネル出力を 1CH の出力として動作させます。

サブハーモニックシンセ

内蔵のクロスオーバー機能により、クロスオーバー周波数 90Hz(24dB / oct)フィルターが ON になり、 迫力ある低音が得られます。入力モードは「CH1+CH2」に設定され、CH1 の入力信号と CH2 の入力信号は ミックスされます。

EQ (イコライザー)

チャンネルごとにイコライザーの ON/OFF を設定します。IN にすると ON に(EQ アイコン点灯)、OUT に すると OFF(EQ アイコン消灯)になります。

本製品には入力と出力2つのイコライザーが搭載されていて、入力 EQ はクロスオーバー前にあり、音場 調整に使用されます。出力 EQ はクロスオーバーの後にあり、スピーカー調整に使用されます。IN に すると2つのイコライザーが ON になります。

入力 EQ

各チャンネルに6種類のフィルターが用意されていて、周波数、ゲイン、Qはユーザーによって変更 できます。また、ゲインと周波数が設定可能なハイ/ロー・シェルフ・フィルターも使用できます。

出力 EQ

各チャンネルに8種類のフィルターが用意されていて、周波数、ゲイン、Qはユーザーによって変更できます。

クロスオーバー

- 「OFF」「90Hz」「100Hz」「1200Hz」「1500Hz」「2000Hz」「2-CH SUB」「CUSTOM」からクロス オーバー周波数を選択できます。「OFF」以外の設定で XOV の DSP アイコンが点灯します。
- 低域の信号は CH1、高域の信号は CH2 に送られます。 CH1 に高域ドライバーを接続しないでください。
- 「2-CH SUB」に設定すると、CH1、CH2 ともに 90Hz のローパス・フィルターがかけられます。
- HiQnet Audio Architect ソフトウェアでクロスオーバーの設定を行った場合、ディスプレイには「CUSTOM」の文字が表示されます。ソフトウェアでは以下のようなより詳細な設定が可能です。

各チャンネルごとにハイパス/ローパス・フィルター、位相反転機能を搭載。バンドパス・ゲインも-15dB~+15dBの範囲で調整することができます。周波数は1Hz 刻みで任意の値に設定可能。スロープは バターワース(6,12,18,24,48dB/oct)、リンクウィッツ・ライリー(24,48dB/oct)から自由に選択。

ディレイ

OFF から 50msec までのディレイをかけることができます。ソフトウェアではディレイを距離(フィート、 メーター)から時間を計算し、設定することができます。

Peak X Plus リミッター

チャンネルごとにリミッターのスレッショルドを設定します。OFF、-0.5~-40dB(0.5dB 刻み)から 選択できます。OFF 以外の設定で LIMIT のアイコンが点灯します。ソフトウェアではアタック、リリース、 スレッショルド(0.1dB 刻み)を設定できます。アンプのクリップを最小限にするため、フィードバック リミッターが搭載されています。

システムモニター

内蔵電源温度と電圧をモニターし、アンプの状態を監視します。

フロントパネル・ロック

「Prev/Up」と「Next/Down」ボタンを同時に押すと、フロントパネルの操作がロックされ、ディスプレイに LOCKED が表示されます。ロータリーノブだけが操作可能です。ロックを解除するには、ディスプレイに UNLOCKED が表示されまで「Prev/Up」と「Next/Down」ボタンを同時に押します。

フロントパネルロックはソフトウェアからも実行できます。ただし、解除もソフトウェアから行います。 フロントパネルからは解除することはできません。

HiQnet Audio Architect ソフトウェア

ソフトウェアの概要

本製品は、PC コントロール用のソフトウェア HiQnet Audio Architect を使用して、DSP の設定を プリセットとして保存したり DSP による音声処理機能の詳細な設定を行うことができます。

Audio Architect は、音響システム構築の作業を効率的に行うためのソフトウェアです。同一ネットワーク上の 複数の HiQnet 対応機器の運用状況の監視や設定の変更を一元的に行えます。ドラッグ&ドロップの直感的な 操作が可能なインターフェースを採用しています。

※PC との接続には AB タイプの USB ケーブルが必要です。

※HiQnet Audio Architect ソフトウェアを使用して、本製品を2台以上同時にコントロールする場合は USB ハブが必要です。USB ハブはパワード・タイプを使用してください。

※XTi2 Series の設定や制御のみを行う HiQnet Band Manager ソフトウェアも用意しています。

Audio Architect 動作要件

※バージョンによっては動作要件が異なる場合があります。

OS: Windows 7/Windows 8.1 /Windows 10 (いずれも 64 ビット)

ハードディスクの空き容量:400MB 以上

[最小必要環境]

■ CPU: 64 ビット デュアルコア@2.0GHz 以上

- \blacksquare RAM : 4GB
- [推奨環境]

■ CPU:64 ビット デュアルコア@2.5GHz 以上

■ RAM:8GB 以上

ダウンロード方法

1. 下記ホームページにアクセスして HiQnet Audio Architect をクリックします。

	HIQnet Media systems			HARMAN
ABOUT HARDWARE SOFTWA	E NETWORKING APPLICATIONS NEWS DOW	NLOADS TRAINING	CONTACT (MUCH	SEARCH
Software Dov	vnloads			
[HiOnet Audio Architect vii 202 Minolws 1334 MB	6		
	HiQnet Motion Control vlacio29			
	HiQnet.NetSetter v1.0-R2 (Windows) [24 MB]			
	Powered by Crown			

 画面右側の、DOWNLOAD 内、「HiQnet Audio ArchitectvX.X (Windows)]をクリックすると、 ソフトウェアのダウンロードが始まります。ダウンロードが完了したら、ソフトウェアを任意の場所に 保存してください。



PCへのインストール

- 1. ダウンロードして保存した zip ファイルを任意の場所に展開し、[AudioArchitectX.XX.exe]を起動します。 ※不明な発行元を示す警告メッセージが出たら、[実行]をクリックして先に進みます。
- 2. ソフトウェアをセットアップするためのウィザードを準備します

(時間がかかる場合があります)。進行中は下のメッセージが表示されます。



- 3. 準備が終わると、自動的にセットアップウィザードを開始します。画面の指示に従い、インストールを すすめてください。
- 4. 下の画面でインストールが終了します。



PC との接続~ソフトウェアの起動

Audio Architect のアイコンをクリックし、ソフトウェアを起動してください。本製品と PC を USB ケーブルで接続すると、ソフトウェアが本製品を検出します。複数台のアンプを同時に接続 する場合は、ハブを使用してください。

画面左側の[Devices]エリアの、[Discovered]ツリー内に、検出した本製品を表示します。



起動時の画面

左側の[Devices] エリアの[Discovered] ツリーから検出された本製品を探し、右側の[Room] エリアに ドラッグ&ドロップしてください。

アンプのアイコンが[Room] エリアに配置されます。

※ [Room] エリアに追加した機器は、[Discovered] から削除されます。



Doc.#: SHD691-D

プリセットの呼び出しと上書き保存

画面に現れた本製品の前面パネルをダブルクリックすると、メイン・コントロールパネルが現れます。 上部の「PRESET」には現在再現されているプリセットが表示されています。本製品に保存されている プリセットを呼び出すためにはその右にある「RECALL」をクリックして、呼び出したいプリセットを 選択し、OK をクリックします。本製品や HiQnet Audio Architect ソフトウェアで DSP の設定を変更後、 その設定を本製品のプリセットに保存したい場合は、「STORE」をクリックして、保存したいプリセットを 選択し、OK をクリックします。プリセットには任意の名前をつけることもできます。

※プリセットは上書きされ、以前の設定は消去されますのでご注意ください。

※プリセット1の「DSP OFF」には保存できません。

※プリセット 2~5 にはクイックスタート・プリセットが保存されています。プリセット 2~5 に保存した 場合は、クイックスタート・プリセットは消去され元に戻すことはできません。ご注意ください。



ファン回転速度の切り替え

メイン・コントロールパネルの右上にある「ADVANCED」をダブルクリックするとファン回転速度の切り替え 画面が表示されます。ファンの回転速度は「Normal モード」「Early モード」「Full-Speed モード」の3つの モードがあり、状況に応じて切り替えることができます。工場出荷時に設定されている「Normal モード」は ほとんどの用途に適しています。「Early モード」は「Normal モード」よりも低い温度でファンが回転し始め ます。「Full-Speed モード」は常に最高速度で回転します。

※プリセットは上書きされ、以前の設定は消去されますのでご注意ください。

※プリセット1の「DSP OFF」には保存できません。

※プリセット2~5にはクイックスタート・プリセットが保存されています。プリセット2~5に保存した 場合は、クイックスタート・プリセットは消去され元に戻すことはできませんのでご注意ください。 ※本製品は通気ロにフィルターを備えていないため、「Full-Speed モード」はほこりの多い場所では使用 しないでください。

トラブルシューティングガイド

Thermal インジケーターが点灯して音が出ない。 Thermal Thermal プロテクション回路が作動しています。 放熱のため電源を切って時間を置いてください。 通気口が汚れている場合は汚れを取り除きます。

インジケーターは正常な状態だが音が出ない。

スピーカーが正しく接続されていない可能性があります。スピーカーの接続を	Thermal	0
確認してください。	Clip	0
	-10	Ь,
	-20	ŏ
	Signal	Ъ.
	Ready	Ø

Clipインジケーターが点灯して音が歪む。

信号のレベルが高すぎるため音が歪んでいる可能性があります。本機のレベル Thermal つまみを確認してください。 Clip -10 -20 Signal Ready

Ready インジケーターが点灯しているが音が出ない。

信号が入力されていないかレベルが低すぎる可能性があります。ミキサー等の Thermal 0 入力機器の音量や本機のレベルつまみを確認してください。 Clip 0 -10 C -20 0 Signal 0

電源インジケーターが点灯していない。

電源ケーブルが正しく接続されていない可能性があります。電源ケーブルの接続を 確認してください。

© 2019 Sound House Inc.

Clip

-10 C

-20 C

0

Signal

Ready

Ready

全てのインジケーターが点灯して音が出ない。

1.	Thermal プロテクション回路が作動しています。放熱のため電源を切って時間を	×
	置いてください。通気口が汚れている場合は汚れを取り除きます。	
2.	スピーカーまたはスピーカー・ケーブルがショートしています。Clip インジケーターが	-10 ど
	点灯している方のスピーカーやスピーカー・ケーブルを一つずつ取り外し。原因の箇所を	_20 凶
	特定します。不見合があった場合け正堂なものに交換してください	Signal 🖔
		Ready



※この取扱説明書に記載されている商品名、会社名などは、その会社の商標登録です。また、掲載されている図、 写真などの著作権はその会社にあります。

© 2019 Sound House Inc.